

世界糖尿病デー／世界未熟児デー 啓発活動実施

聖隷浜松病院の玄関をライトアップします！

聖隷浜松病院では、世界糖尿病デー(11/14)／世界未熟児デー(11/17)、患者さんや市民の皆さんに疾患に対する関心を高め、正しい理解の普及のため、病院の正面玄関の照明色を変更し、ライトアップを実施します。

■「世界糖尿病デー」

～糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動～

ブルーライトアップ

期間:11月11日(水)～15日(日) 場所:病院玄関

時間:17時から21時まで

2019年、世界の糖尿病人口は4億6,300万人に上っており、2045年には約7億人に達すると試算されています。中でも日本が位置するアジア・太平洋地域の患者数の増加は深刻で、2019年は1億6,300万人と全世界の約1/3の糖尿病患者がこの地域に集中しています。我が国においても、糖尿病と強く疑われる人と可能性を否定できない人の合計は約2,000万人に上り、早急な対策が迫られています。

世界糖尿病デーのキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられますが、これは、糖尿病に関する国連決議が採択された翌年2007年から使われるシンボルマークです。国連やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、「Unite for Diabetes」(糖尿病との闘いのため団結せよ)というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。(世界糖尿病デー実行委員会hpより)

■「世界未熟児デー」

～早産のお子さんと家族にエール！&

小児周産期医療の重要性をアピール～

パープルライトアップ

期間:11月16日(月)～11月19日(木) 場所:病院玄関

時間:17時から21時まで

世界未熟児デーは国連やWHO、セーブ・ザ・チルドレンなどの諸団体が協力していく取り組みの中で2011年に制定され、毎年多くの国、NGO、国連機関や医療に関わる団体が参加して早産や未熟児についてのイベントやランドマークのライトアップが行われてきました。

当院は、1977年5月日本で初めて人工呼吸器や血液ガス分析器などを装備した新生児専用救急車が配備され、毎年250件以上出動し県西部で発生した新生児症例に対応しています。

今年は、当院新生児科大木茂医師が発起人となり、浜松市内の産科・新生児科・小児科の医師看護師コメディカル・行政などに賛同いただき、浜松城とアクトシティタワーをライトアップしていただくことになりました！！浜松市健康増進課の皆様からもバックアップいただきました！

市内の小児周産期医療関係者から全てのお子さんとそのご家族にささやかですが熱いエールを！

聖隷浜松病院・浜松城・アクトタワー
11/17
紫色に染まります！

是非、貴社にてご紹介いただければ幸いに存じます。貴紙で取り上げて頂けるようでしたら、

予め下記連絡先までご一報いただけましたら幸いです。よろしく願いいたします。

【問い合わせ先】聖隷浜松病院 学術広報室 鈴木 TEL053-474-2753・FAX053-474-2763